

令和7年度第1回宇都宮市社会福祉審議会地域福祉専門分科会会議録

■ 日時 令和7年8月27日（水）午後3時～4時20分

■ 場所 宇都宮市中央生涯学習センター 2階 204会議室

■ 議事 「宇都宮市地域共生社会の実現に向けた福祉のまちづくりプラン」の
令和6年度の進捗状況と令和7年度の取組について

■ 出席者

【委員】中塚 英範委員，手塚英和委員，麦倉仁巳委員，佐々木洋二委員，釧持幸子委員，清水孝一委員，興野憲史委員，浜野修委員，小松整洗委員，木村由美子委員，石井大一郎委員，松本カネ子委員，（12名）

【事務局】[保健福祉総務課]課長，課長補佐，企画グループ係長，職員2名
地域共生推進室長，事業グループ係長

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 無

■ 会議経過

- 1 開 会
- 2 分科会長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議 事

「宇都宮市地域共生社会の実現に向けた福祉のまちづくりプラン」の令和6年度の
進捗状況と令和7年度の取組について

5 その他

6 閉 会

《発言要旨》

4 議事

（委員） A評価は何点になるのか。わかりにくい。

（事務局） 9スライド目に記載のとおり，A 評価は25点となる。

A評価を25点，B評価を20点，C評価を15点として，点数の合計を重点取組の数で割り，1取組の平均値を出した上で4を掛けて100点満点に換算し，3本の基本目標をそれぞれ評価している。各取組に関する A～C の3段階評価と，基本目標に対する点数の評価の2種類があり，ご理解いただきたい。

（委員） A評価の取組は，「想定以上に進んでいる」と捉えて良いと思われる。

- (事務局) A～C の評価は、当該年度の目標に対する評価であるため、計画策定時に設定した令和6年度の目標値を上回る取組をA評価としている。
- (分科会長) 事務局の説明を整理すると、「各取組の評価はA～Cの3段階あり、年度ごとに設定した目標値に対する取組状況から判断しているということ」である。
- (委員) 12スライド目の「No20自治会加入促進事業」の実績値の欄に「98%」とあるが、「自治会加入率が98%」であるように見えてしまう。
- (事務局) 実績値の欄にある括弧内のパーセントは、年度目標の達成率となっている。自治会加入率については、別紙のエクセル表に記載のとおり、令和6年度の目標値が148,875世帯だったところ、実績値が145,557世帯ということで、達成率98%となっている。
- (委員) 説明を受けないと、実績値や括弧内の達成率の考え方はわかりにくい。
- (分科会長) 元々の目標値や、目標値に対する達成率であることが分かった方が、市民にも誤解が生じない。
- (事務局) 次年度以降、表については、目標値や実績値がわかるように調整していく。
- (委員) 「自治会加入促進」の事業について、令和9年度の目標値は15万世帯との記載がある。市の世帯数が242,000世帯ぐらいとして、その目標値を達成すると、「現在60%程度の自治会加入率が、何%になる」というところまで書いてあると少しわかりやすい。
- (分科会長) 評価の手法については、本分科会において一旦承認いただいたものであるため、これに基づき評価をすることはやむを得ないが、今回の意見を踏まえ、この評価手法がよかったかどうか、反省として捉えるべきだと思う。次年度以降に向けて、「加入世帯数」ではなく、「加入率」で表現することが妥当であれば、変えても良いのではないかと私は思う。
- 今ここでは、変えられるかどうかの判断はできないが、次年度以降、市民に伝わりやすい表現の仕方や目標の選択などの、修正を検討するということによろしいか。
- (委員) 12スライド目の「No21民生委員児童委員活動等に対する支援」がA評価となっているが、実績値の欄の「定性的評価」とはどういう意味か。
- (事務局) 9スライド目の定性評価の欄のとおり、「概ね順調に進捗しており、特に改善すべき課題のない事業」をA、「概ね順調に進捗しているが、一部改善すべき課題がある事業」をB、「改善すべき課題がある事業」をCという形で、評価している。
- No21は、令和6年度にリーフレットを作成したことなどもあり、A評価としている。
- (委員) 違和感があるのは、「民生委員が増えた」などのアウトカム評価ではないこと。
- (委員) 「なり手不足に対して努力している」ということに対する評価であり、問題ない。
- (委員) 「No27ボランティアセンターの充実」がB評価となっており、登録団体数が減っている。これからもがんばっていかねばいけないと思った。
- また、No.24の福祉協力員については、ある地区では、「福祉協力員になった方が、次に民生委員となる」というルールがあるため、福祉協力員になる人がいない。
- (委員) 自治会によっては、様々な役職をローテーションで決めるルールを作っているが、ルールがあっても断る人がいる。担い手不足から民生委員を兼務する自治会長もいる。
- (委員) 16スライド目の「No59不登校児童生徒の個々の状況に応じた支援の充実」の実績値欄の「78.1%」と括弧内の「99.2%」はどういう意味か。
- (事務局) 不登校児童生徒のうち、学びの機会を保障し、将来の社会的自立に向けた支援につ

ながった児童生徒の割合が、昨年度は78.1%の方が支援につながったので、令和6年度の目標に対して99.2%の達成率となったもの。

(委員) 先ほど、3つの基本目標ごとの評価について説明があったが、計画全体としての大きな課題は何か。

(事務局) 6スライド目の記載の通り、計画全体の大きな目標としては、基本目標ごとに成果指標を定めており、最終年次に向けて取り組んでいる。

(委員) 定性的評価は、誰がどういう手続きで行っているのか。

(事務局) それぞれの取組を実施している担当課にて評価している。

(委員) 実績値のあるものは、数値で明確に客観性を設けているが、定性的評価は評価者による影響も受ける。数字でないとわかりにくい。

(事務局) これまで委員の皆様からのご意見をいただいた上で一旦設定した目標値なので、市の意向のみで変更することは難しいが、今回、「より良い目標値があるのでは」というご意見いただいたところであり、改めて設定することが可能かどうか検討していきたい。

(分科会長) 今回の評価については当初に設定した目標値に対する評価であるため、当初の目標値の良し悪しはあったとしても、市民への説明責任を果たすためにも、目標値としては、今回はこれで良いと思う。

ただ、「実績値や達成率などがわかりにくい」という意見もあり、どのような目標であるかなどが資料から一目でわかることが必要と思われるため、その部分は来年度に向けて少し修正いただきたい。

また、C 評価の1件については、目標と実績の違いについて「どうなの」という意見も想定されるため、説明での補足や、表現の工夫などがあっても良いのではないかと思う。

(委員) 全体的に見ると、人口が減少して単身世帯が増加するなか、自治会加入は減っており、ヤングケアラーなど家族の介護問題もある。

本件の計画については、現状にあった評価ができるように我々もがんばり、それでも評価が難しい場合には、次回計画を作る際に、作り方を変えていかなければならないと思う。

(分科会長) 現在の計画においては、大きな目標の部分などは変えられないと思うので、説明の仕方など、できることは対応していくということをお願いしたい。